

序

奈良盆地の北端に位置する平城京は南北約5 km、東西約6 kmにも及ぶ広大なもので、わが古代律令国家のシンボルともいふべき巨大な都市であります。この中心である平城宮については国有地化が図られ、年々発掘調査によってその内容が次々と判明されております。京域に関しましてもようやく発掘調査が軌道にのりはじめ、ほぼ全域に貴重な平城京の遺構の存在することが明らかとなってきました。

朱雀大路をはさんで京の東西にほぼ対称的に設けられた東西両市はまさにこの京の経済の中心ともいふべき役割をはたした重要な場所であります。今回、吉本工務店がマンションの建設を計画した地が平城京右京八条二坊にあたり、この西市想定地に相当するため建設工事に先だって奈良国立文化財研究所に依頼して発掘調査を実施するはこびとなりました。その結果、本書に示されておりますような貴重な資料を得ることができました。

本書が今後の平城京の保護、研究、ひいては古代史研究の一助ともなりえれば望外の喜びと存じます。

最後になりましたが、本調査を担当いただきました奈良国立文化財研究所の関係各位の労苦に対して厚く感謝申し上げます。

1982年3月31日

奈良県教育委員会教育長

中 村 章 太 郎